

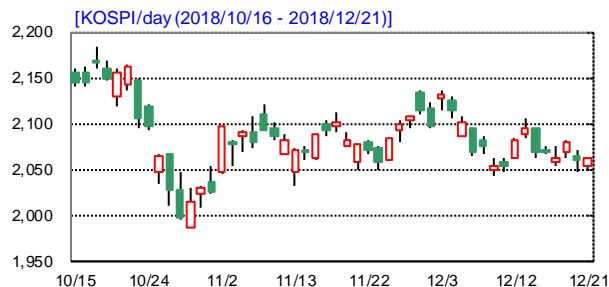


【韓国】 総合指数は 0.4%安と 3 週続落、今週は正月連休を控え手じまい売りも

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 0.4%安と 3 週続落。米株相場の急落を受けて売り優勢の展開だった。週前半は 18-19 日に開催された米連邦公開市場委員会 (FOMC) を控えて小幅な値動き。19 日に韓国政府の景気対策を好感した買いが入ったものの、翌 20 日は FOMC の結果を受けた米株急落や景気減速懸念を嫌気し、終値ベースで今月 11 日以来の安値圏まで下落した。週末 21 日は主力ハイテク株の一角が買われてわずかに反発したが、引き続き米株安が相場の重しとなった。今週は 25 日がクリスマスで休場。NY 市場も 24 日午後から 25 日まで休場となり、方向感が定まりづらいか。週末から正月連休に入るため、手じまい売りも強まりそうだ。国内では 27 日に 11 月の消費者信頼感指数、28 日に 11 月の鉱工業生産などが発表される予定。

▼指数チャート

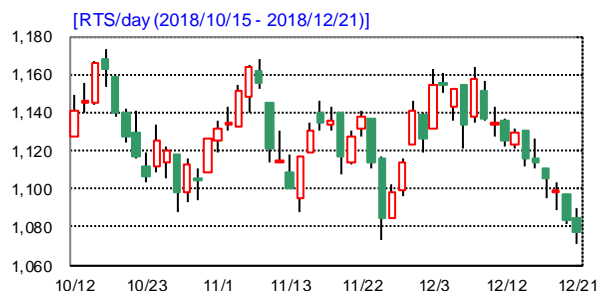


【ロシア】 RTS 指数は 3.5%安と続落、今週は原油相場をにらんだ神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 3.5%安と続落。原油相場の大幅な続落が嫌気されたほか、米 FOMC を受けた米国株の急落やルーブル安も重しとなった。週明け 17 日は、19 日に結果が公表される FOMC を控えて様子見でスタートすると、翌 18 日は原油安が嫌気されて続落。FOMC では金融引締め政策の継続が示されたことで米国株が急落し、ロシア株も下げ幅を広げた。米政府がルサルなどのロシア企業への制裁を解除する方針を示し、好感される場面もあったが、下げ止まらない原油相場に加え、翌週からのクリスマス休暇や年末年始の 11 連休を控えた持ち高整理も重しとなった。RTS 株価指数は前週の 14 日から 6 日続落し、9 月 12 日以来の水準で終了した。今週は市場参加者が減少する中、原油相場をにらんだ神経質な展開か。

▼指数チャート



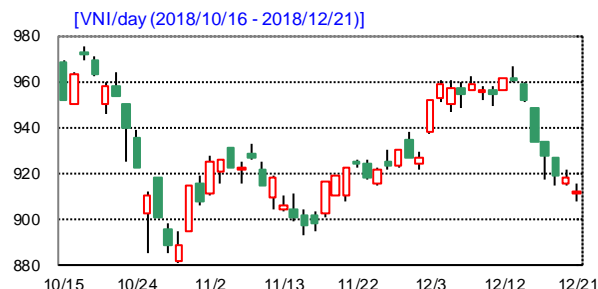
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 4.2%安と大幅続落、今週は手じまい売りで軟

調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 4.2%安と大幅続落。世界的に景気減速懸念が続く中、米 FOMC で金融引き締め継続が示されたことで資金流出への警戒感が続いた。17 日は前週末の中国経済指標の悪化が嫌気された。指数は主要セクターの全面安を受けて 1.9%安となり、東南アジアの主要指数の中で最も下げがきつかった。19 日の FOMC が市場の期待ほどハト派的でなく、米国株が下落すると、ベトナム株も下げ幅を広げた。指数は 21 日まで 7 日続落し、週間では 4.2%安と 10 月 26 日終了日以来の下げ幅。終値は 11 月 16 日以来の安値となった。個別では乳製品のベトナム・デイリー・プロダクツ (9.3%安)、住宅のビンホームズ (7.4%安) などが指数を押し下げた。今週は閑散相場が予想される中、リスク回避や手じまい売りで軟調か。

▼指数チャート

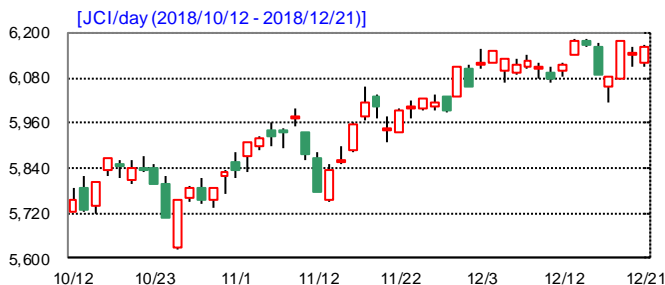


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%安、貿易赤字拡大を嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で 0.1%安と 4 週ぶりに反落。不安定な値動きが続いた 1 週間だった。17 日は 11 月の貿易赤字が 13 年 7 月以来の最高額に膨らんだことが嫌気され、指数は終値で前営業日比 1.3%安。18 日まで 3 日続落したが、19 日は米中が 1 月に通商協議を予定していると報じられ、前日比 1.5%高と反発した。一方、20 日は米 FOMC が前日までの会合後に発表した声明の内容が予想よりタカ派的だったことが嫌気され、金融株が下げを主導したものの、21 日には反発して引けている。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因が相場を左右する展開か。24-25 日はクリスマスの祝日で休場。

▼指数チャート

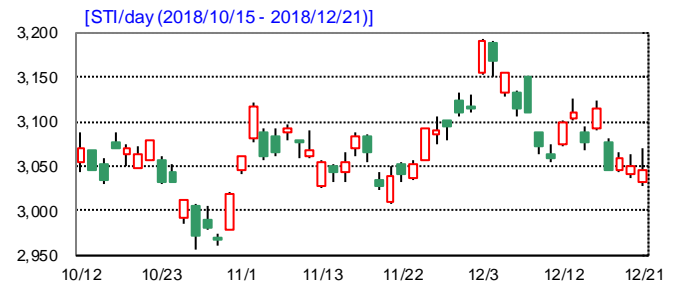


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.0%安、今週は 11 月の鉱工業生産に注目

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.0%安と 3 週続落。週初は前週末の反動で上昇したが、その後は総じて軟調に推移した。17 日は 11 月の非石油地場輸出が前年同月比 2.6%減と 8 カ月ぶりにマイナスに転落したものの影響は軽微で、指数は終値で前営業日比 1.2%高。一方、18 日は金融株に売りが集中し、前日比 2.2%安と反落した。19 日はいったん買い戻されたが、20 日は前日の NY ダウが FOMC 閉会後に下落した流れで反落すると、21 日も続落して取引を終えた。今週は 24 日の 11 月の CPI に続き、26 日には鉱工業生産が発表される予定。24 日はクリスマスイブのため半日立ち合い、25 日は休場となる。

▼指数チャート

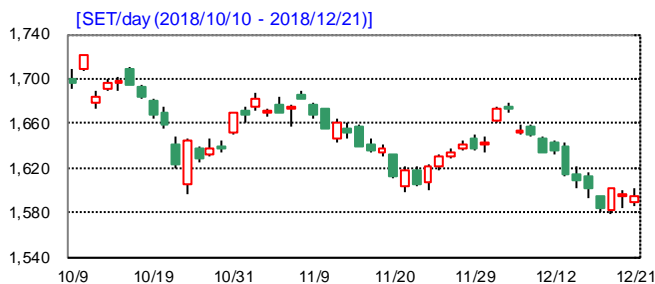


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.9%安、中央銀行が 7 年半ぶりに政策金利引き上げを決定

SET 指数は週間で 0.9%安と続落。週半ばの反発を除き、軟調だった。17 日は前週末の NY ダウが大幅反落した流れを引き継ぎ、3 営業日続落。18 日は原油価格の下落を受けてエネルギー株が売られ、指数は終値で節目の 1600 ポイントを割り込み、約 1 年 4 カ月ぶりの安値を更新した。一方、19 日は 15 年 3 月以来 1.50%に据え置かれていた政策金利が、1.75%に引き上げられた効果で金融株が指数上昇をけん引し、前日比 1.1%高と反発。ただ、20 日に反落すると、21 日は 11 月の輸出（通関ベース）が市場予想を下回った影響で続落した。今週は 25 日発表の 11 月の鉱工業生産に対する市場の反応が注目される。

▼指数チャート

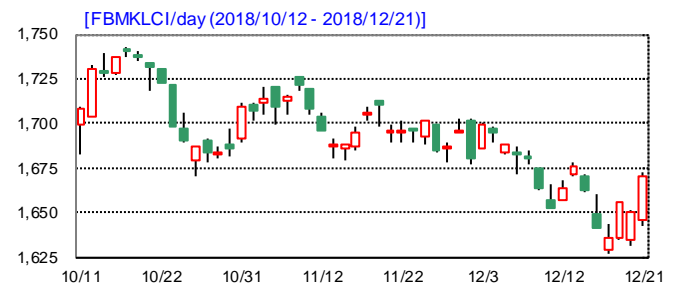


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.5%高、今週はお化粧品買いの継続に期待

クアラルンプール総合指数は週間で 0.5%高と反発。週末の上昇が奏功した。週初の 17 日は引け際にテナガ・ナショナルなどの大型株が売られ、指数が終値で前営業日比 1.2%下落すると、18 日には約 2 年ぶりの安値を更新。一方、19 日は年末に向けたお化粧品買いで前日比 1.2%高と 4 営業日ぶりに反発した。20 日は FOMC の声明内容に対する失望感に加え、原油価格の下落が嫌気されて反落したものの、21 日はテクニカルな買いに支えられ、前日比 1.2%高と反発して取引を終えた。今週は国内の経済イベントが少ない中、機関投資家による買いが続けば株式相場の追い風になる。25 日はクリスマスのため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。